

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成18年1月5日(2006.1.5)

【公表番号】特表2005-514948(P2005-514948A)

【公表日】平成17年5月26日(2005.5.26)

【年通号数】公開・登録公報2005-020

【出願番号】特願2003-562288(P2003-562288)

【国際特許分類】

C 12 N 15/09 (2006.01)

A 61 K 31/7088 (2006.01)

A 61 K 48/00 (2006.01)

A 61 P 35/00 (2006.01)

【F I】

C 12 N 15/00 Z N A A

A 61 K 31/7088

A 61 K 48/00

A 61 P 35/00

【手続補正書】

【提出日】平成17年11月10日(2005.11.10)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

二重特異性アンチセンスオリゴヌクレオチドであって、本質的に、全ての該オリゴヌクレオチドはヒトIGFBP-2をコードする遺伝子の一部に相補的であり、本質的に、全ての該オリゴヌクレオチドはヒトIGFBP-5をコードする遺伝子にも相補的であり、かつ該オリゴヌクレオチドはヒトIGFBP-2およびヒトIGFBP-5のアンチセンスインヒビターとして作用するのに充分な長さである、二重特異性アンチセンスオリゴヌクレオチド。

【請求項2】

該オリゴヌクレオチドは本質的に、配列番号1に記載される一連の塩基からなる、請求項1に記載のアンチセンスオリゴヌクレオチド。

【請求項3】

該オリゴヌクレオチドは、本質的に、配列番号2に記載される一連の塩基からなる、請求項1に記載のアンチセンスオリゴヌクレオチド。

【請求項4】

該オリゴヌクレオチドは、本質的に、配列番号3~7のいずれかに記載される一連の塩基からなる、請求項1に記載のアンチセンスオリゴヌクレオチド。

【請求項5】

該オリゴヌクレオチドは、配列番号1に記載される一連の塩基からなる、請求項1に記載のアンチセンスオリゴヌクレオチド。

【請求項6】

該オリゴヌクレオチドは、配列番号2に記載される一連の塩基からなる、請求項1に記載のアンチセンスオリゴヌクレオチド。

【請求項7】

該オリゴヌクレオチドは、本質的に、配列番号3～7のいずれかに記載される一連の塩基からなる、請求項1に記載のアンチセンスオリゴヌクレオチド。

【請求項8】

内分泌調節性癌の治療用の薬剤組成物の製造方法であって、請求項1～7のいずれか1項に記載の二重特異性アンチセンスオリゴを、静脈内、腹腔内、皮下または経口投与のための薬剤学的に許容しうる担体と組合せる工程を含む製造方法。

【請求項9】

内分泌調節性癌に罹患している対象における内分泌調節性癌の治療用の薬剤組成物の製造方法であって、請求項1～7のいずれか1項に記載の二重特異性アンチセンスオリゴを、静脈内、腹腔内、皮下または経口投与のための薬剤学的に許容しうる担体と組合せる工程を含む製造方法。

【請求項10】

癌は前立腺癌である、請求項9に記載の製造方法。

【請求項11】

癌は乳癌である、請求項9に記載の製造方法。

【請求項12】

請求項1～7のいずれか1項に記載のアンチセンスオリゴヌクレオチドと薬剤学的に許容しうる担体を含む、薬剤組成物。